

3月31日 ローヤリティー諸島南東方の地震

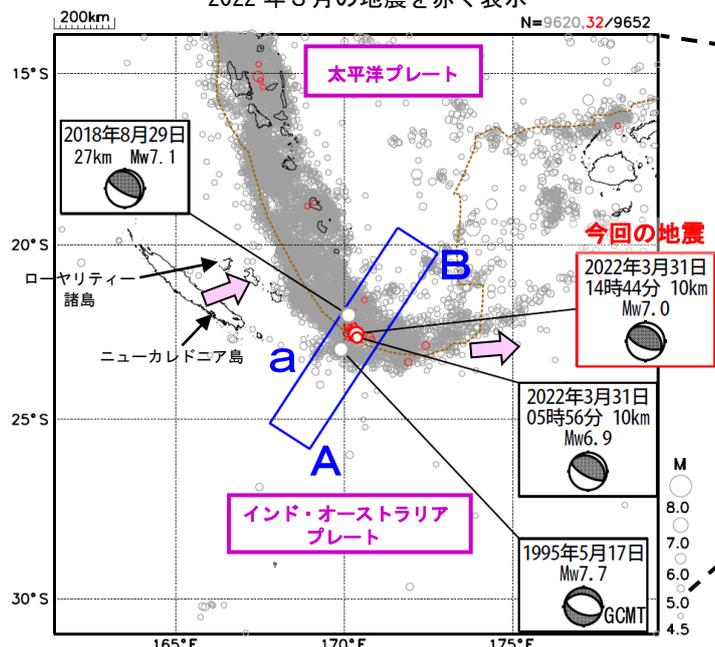
2022年3月31日14時44分（日本時間、以下同じ）にローヤリティー諸島南東方の深さ10kmでMw7.0の地震が発生した。この地震は、発震機構（気象庁によるCMT解）が北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界で発生した。

気象庁は、この地震に対して、同日15時11分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。

今回の地震の震央付近（領域b）では、今回の地震の発生から約8時間前の05時56分にMw6.9の地震が発生している。

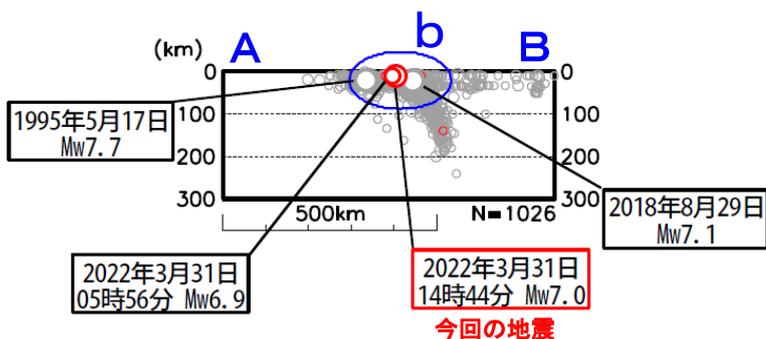
1980年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生するなど、活発な地震活動がみられる。また、1995年5月17日のMw7.7の地震や2018年8月29日のMw7.1の地震では、これらの地震により津波が発生している。

震央分布図
(1980年1月1日～2022年3月31日、深さ0～300km、M \geq 4.5)
2022年3月の地震を赤く表示

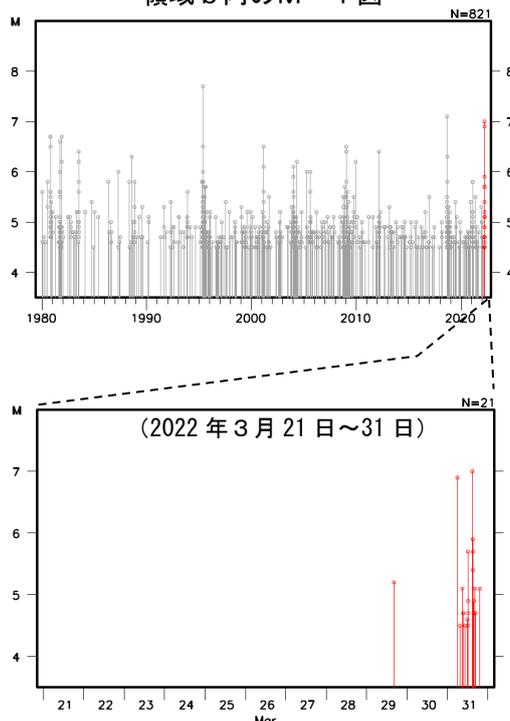


----- プレート境界の位置
← プレートの進行方向

領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内のM-T図



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。1995年5月17日の地震の発震機構とMwはGlobal CMTによる。2018年8月29日の地震の発震機構とMwは気象庁による。また、1980年以降の地震の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2022年4月4日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。津波については、1995年の地震は宇津の「世界の被害地震の表」、2018年の地震は米国海洋大気庁（NOAA）による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.